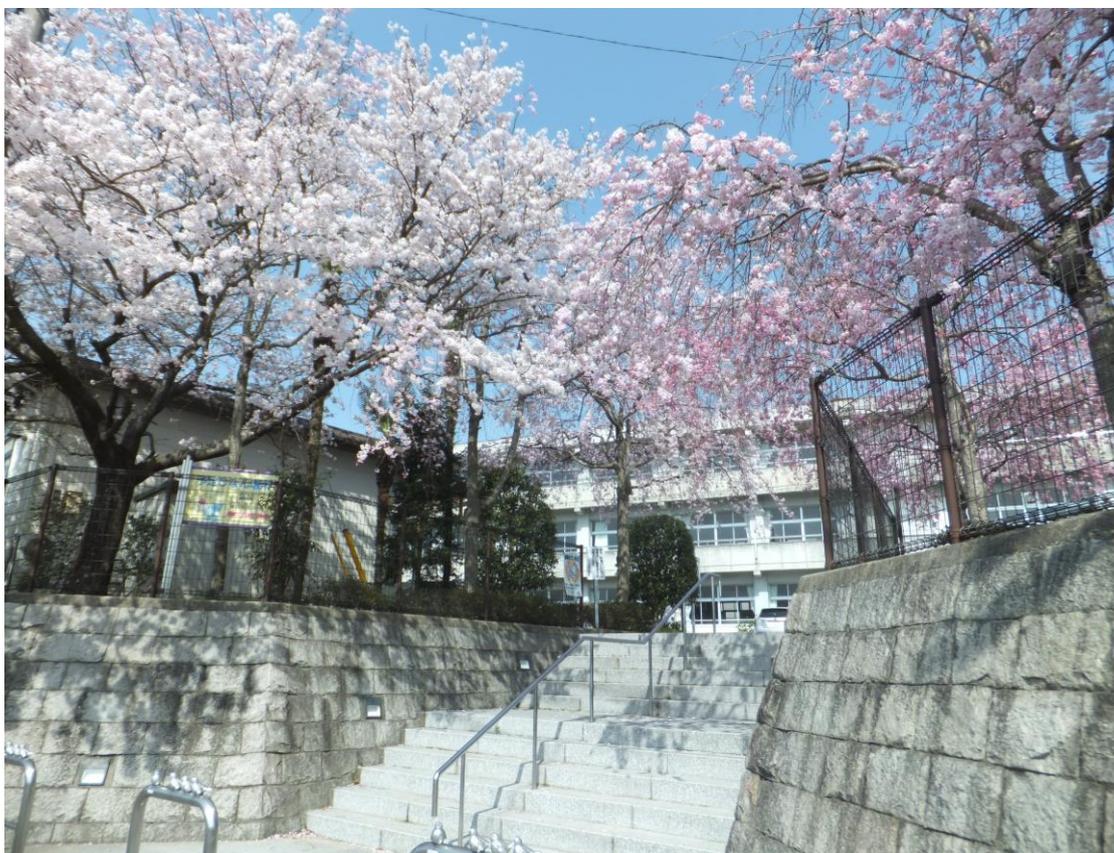


サクラの植え付け



(満開の宮野小学校)



みやの地域づくり協議会
生活・環境部会

はじめに

“桜を知って、桜を楽しもう”

宮野には『桜島』という地名があるように、昔から人々によって桜が植えられ、地域のあちらこちらに桜の名所があります。

なかでも、宮野小学校・宮野中学校の校庭、木戸山公園や宮野湖（荒谷ダム）、国道9号線沿いの桜並木、陸上自衛隊演習場周辺など各地に「ソメイヨシノ」が多く植栽されています。

これらの名所に加えて、近年、新たに山口県立大学で進められている「桜の森育成プロジェクト」や江良地域の桜愛好家の皆さんによる「桜の里づくり」事業、さらには「マロニエの森の会」の会員の皆さんのボランティア活動による杖坂でのシダレザクラの植樹が進められており、近い将来には「宮野の里」が名実ともに「桜の里」として彩られることでしょう。

「宮野さくらの里づくり」を推進していくためには、多くの方々のご協力が必要となります。だれもが事業に参加していただけるように、植え付けに係るマニュアルを作成いたしましたのでご活用下さい。

本マニュアルを作成にあたり、下記の方々にご協力いただきましたことを紹介するとともに、心よりお礼申し上げます。

みやの地域づくり協議会 生活・環境部会 部会長 寺田 吉雄
(宮野財産区議長)

公益財団法人「日本さくらの会」 さくら植育アドバイザー
樹木医 藤原 俊廣

平成27年3月

みやの地域づくり協議会 会長 森近 慎治

昭和40年3月1日付け「山口市報」を紹介します 【一部抜粋】

— 9号国道を花の並木で— 木戸山附近に植樹

沿道に桜並木をつくり美しくしようという運動が行われています。宮野郷友会（会長山本秀夫さん、会員80人）では、全国的に行なわれる“春の緑化運動”にも一役買う意味も含めて、2月13日、宮野婦人会（会長松向寺初野さん、会員約700人）の応援を得て、会員が総出で峠山橋から大峠まで約2^{キロ}の間に300本の桜の苗木を植え、これに支柱を立てる作業を行いました。

なお、41年・42年度もこの事業は継続され、大峠から萩に通ずる国道262号線の開通とともに、小木原までの約3^{キロ}にわたって、約1000本の桜を植えることになっています。

サクラの植え付けについて[苗木]

水はけの良い場所

最も肝要なことは、水はけ良く植えることです。

植栽場所の排水が悪いと必要な酸素が行き渡らず根腐れを起こすか、根腐れしないまでも、根が成長しません。そのため、夏季高温乾燥の際、必要な水分を集められず枝枯れや枯死につながります。

根の生長がなければ、サクラも成長しません。



植える場所の水はけを調べる方法として最も簡便な方法があります。

実際に植穴を掘り(深さ20~30cm)バケツの水を注ぎ入れて見て下さい。

その間に水が引けば最良ですし、長くても半日程度で水が引くようであれば、排水性は悪いといえます。このような場合は、植栽場所を移す必要があります。

また、非常に緊密な土壌に植えるときは、植穴に戻した土は、密度が比較的粗になるので、周囲の堅く密な土壌の水分は植穴に集まり、植穴部分が過湿になり易く、結果的に根腐れや根の成長不良になります。

このような場合は、植穴に植えるのではなく、土を盛り上げて(盛土して)2~3年の根の成長範囲を確保して植えることが必要です。



管理が大事

植栽場所の土壌の肥沃度(成長に必要な養分の多少)は、植え付け時には、それほど問題ではありません。排水性が良ければ、栽培後に必要な肥料分を与えると十分に成長してくれます。水はけが悪ければ、必要な養分が行き渡りません。水はけの良い土壌であって、肥沃な土壌に植えられれば、サクラは勢いよく成長します。

植穴だけが良い土壌では、2~3年は良く成長するかもしれませんが、その後、広く根を張る生長がなければサクラの成長はありません。成長させるためには、適切な手入れを継続して行うことが必要です。

支柱の設置

植え付け時の支柱は、苗木の高さと同等以上の長さがあり、太さが径5~6cmの真竹等の1本支柱で充分です。植穴を掘った後、中心より1~2cmずらして支柱を垂直に打ち込みます。

その後、苗木を支柱に沿って据え、土を埋め戻します。埋め戻しの土が、どろ田の状態になる程度に水を与え、水の浸透・土の落ち着きを確認してから残りの土を戻します。水が浸透してゆくにつれて隙間が無くなり、土が沈みます。最終的には、根の付根部分が隠れる程度に土を戻します。

苗木を据えるとき、最終的な根の位置(深さ)を考えて、土を埋め戻すことが肝要です。



深植えはダメ！

少々浅植えになっても良いですが、深植えは絶対にしないで下さい。

浅植えになった場合は、根の部分に盛土して根を隠せば充分です。

盛土や客土をして植える場合は、直後は土壤の隙間が多く、灌水や降雨の後、土壤の沈下が生じて根が露出したり、根と土壤の間に隙間が生じることがあるので、灌水や降雨の後には注意して見て下さい。

沈下が生じた場合は、土壤を補充して下さい。周辺部の土を盛り土すれば良いです。



支柱の留め方

支柱への留め方は、地際から10cm位のところと、サクラの木の高さ2/3位のところを、軽く結ぶ程度で良いです。肝要なことは、風等で根が土壤の中で動かないようにすることです。

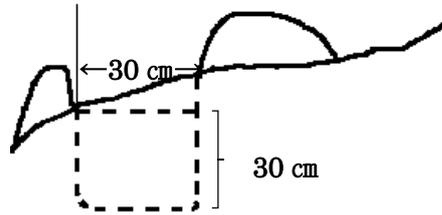
土壤が肥沃な場合は、5～6月頃に急激に肥大することがあり、結束部が肥大して結び縄が幹に食い込み、幹をくびれさせることがあるので要注意です。急激な肥大で、くびれを生じさせる恐れのある場合は、一度結びを解き改めて結び直すようにして下さい。

支柱は、翌年の芽吹く前に取り除くようにして下さい。

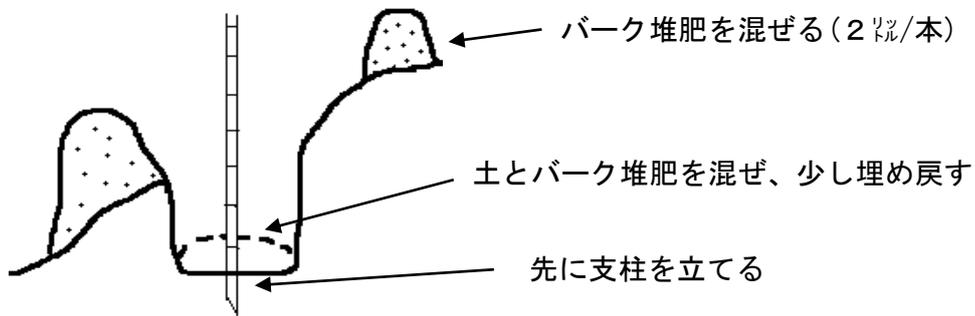


苗木の植え付け方法

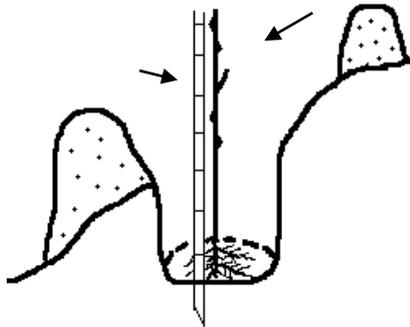
- ① 穴掘 地表の枯葉・腐葉土を取り除き、径 30 cm、深さ 30 cm 程度以上の大きさの穴を掘る。取り除いた枯葉等と掘りあげた土と混ぜないようにする。



- ② 埋戻し

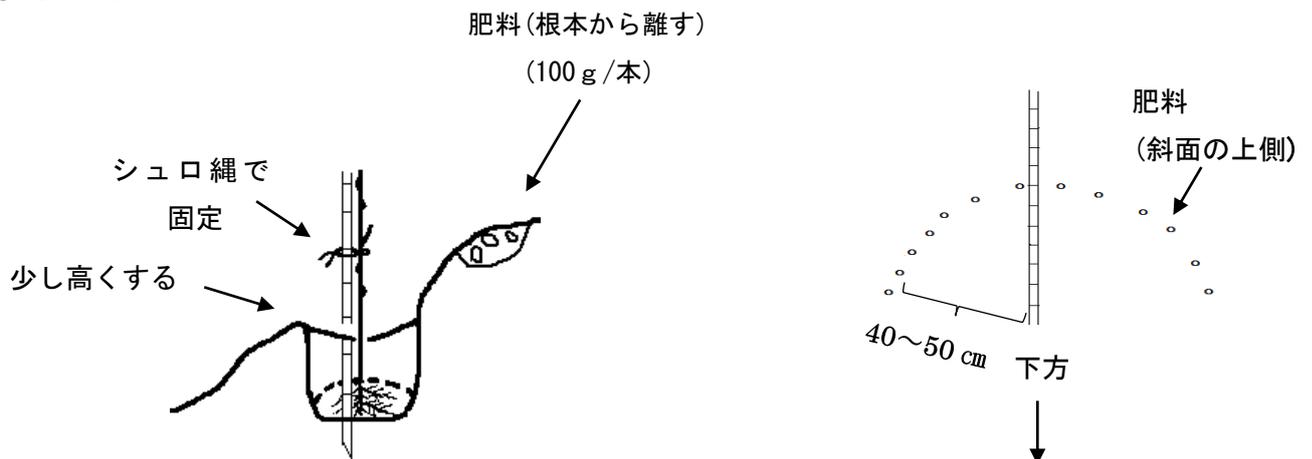


- ③ 植え付け



苗木の根を広げ、埋め戻した土の上に置き、バーク堆肥を混ぜた土を埋め戻していく。2/3 ぐらい土をかけたなら、苗木を軽く揺すって、根の間に土が十分入るようにする。そして、両足で強く踏み固め、軽く手で引っ張って、抜けない程度に踏む。最後に残りの土をかける。

- ④ 養生支柱



サクラの植え付けと支柱の取り付け

植え穴を掘る

◆水はけの良い土壌の場合

植え穴の深さは根の深さより10cm程深く、穴の径は根の大きさ20cm～30cm大きく掘る。

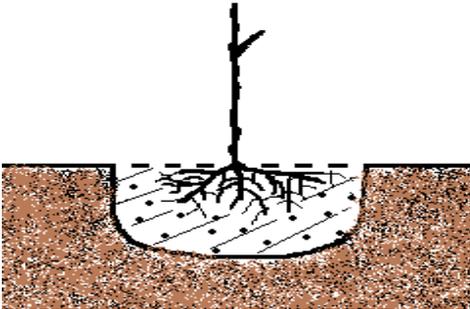
◆堅い土壌に掘る場合

深さ10～20cmの土壌を耕し、根の径より5倍以上の径の盛り土、あるいは客土して植える。盛り土あるいは客土の高さは6cm～10cmにすると充分です。盛り土の径は大きい程、将来的に根の成長が良いです。

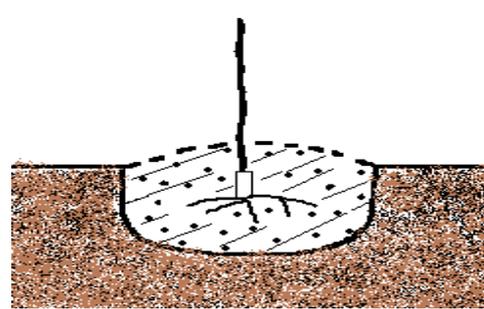
植え付け

根は、サトザクラ(園芸品種)の場合は、接木部分が完全に隠れるように土を戻す。実生苗のヤマザクラ等は根が軽く隠れるように土を戻す。

実生苗のもの



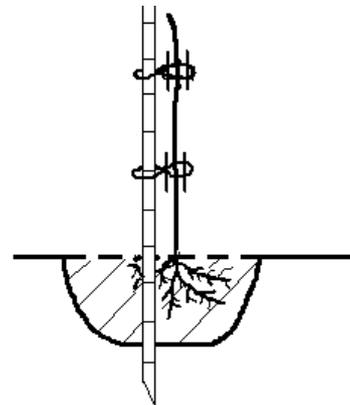
接木苗のもの



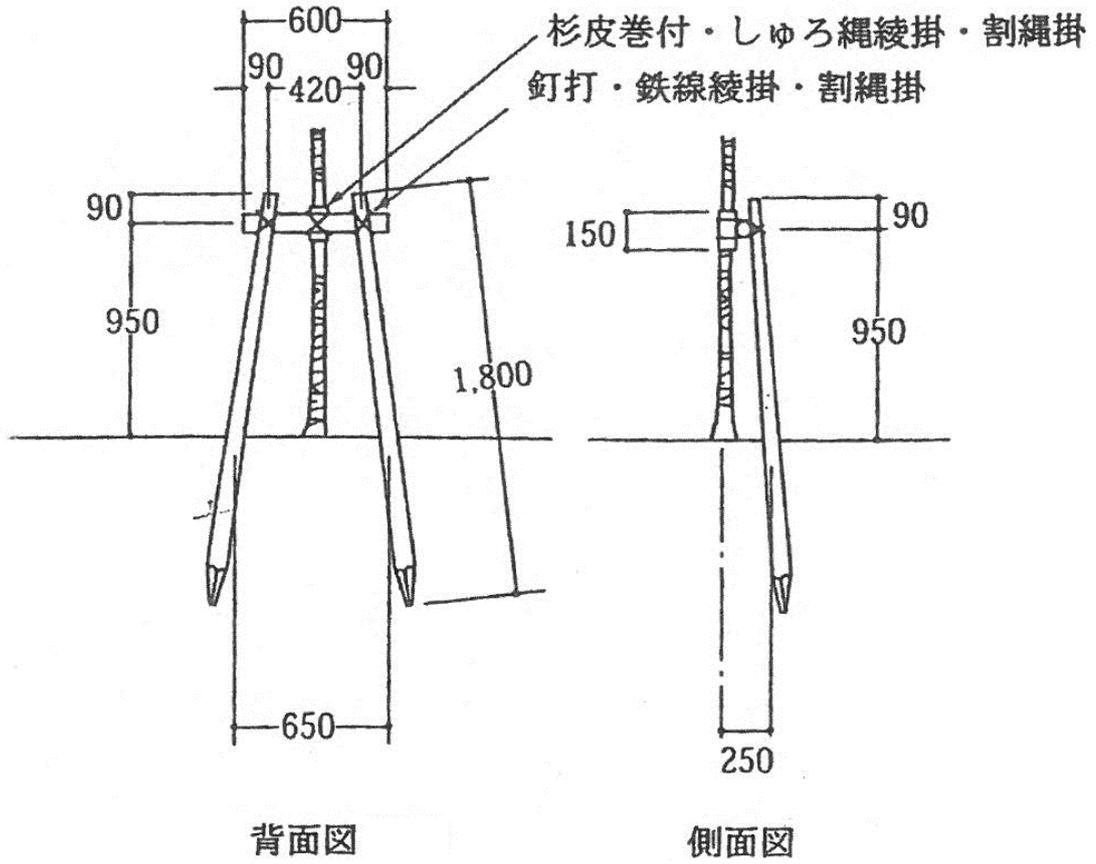
支柱の取り付け

支柱は軽く結わえ、根が動かないようにする。
上部は風に揺れるようで良い。
結びヶ所の肥大によるくびれに注意すること。

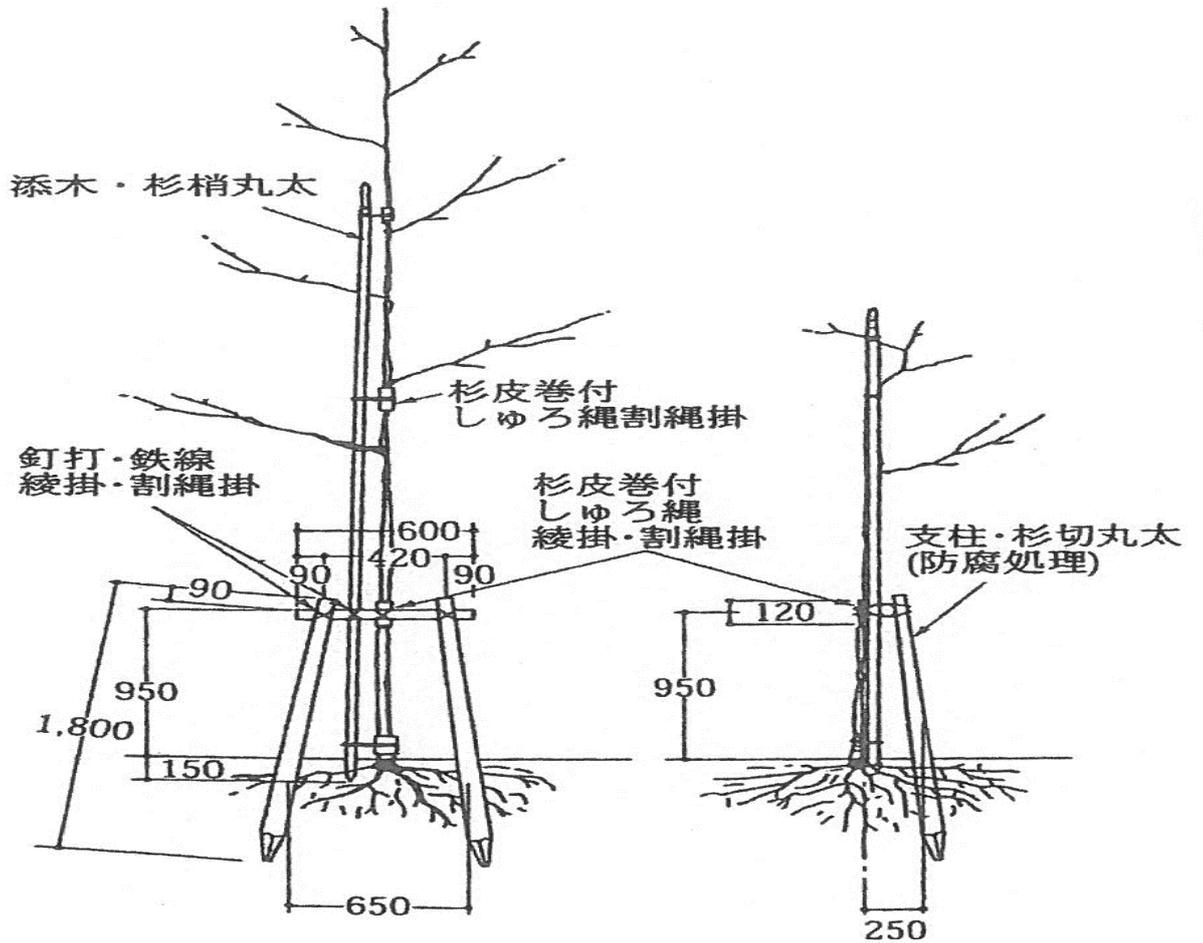
サクラの幹に杉皮・桧皮をあてて、ヒモ・シュロ縄の食い込みを防ぐ方法もあります。
根が動かないようにすることが目的です。



二脚鳥居支柱参考図



二脚鳥居支柱(添木付)参考図



サクラの種類

サクラはヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガンなどのように、山野に自生する野生種と、「染井吉野」、「普賢象」、「関山」などのように、鑑賞を目的に作られた園芸品種(サトザクラ)の、二つの種類に大別することができます。

野生種のサクラ

ヤマザクラとオオヤマザクラ

ヤマザクラは、我が国の桜の中で最も代表的な種類で、古くから詩や歌に詠まれ親しまれてきました。別名、“シロヤマザクラ”とも呼ばれ、主に本州中部以南に自生しています。花は白色か淡紅色で、ときには香気の強いものもあります。清楚で一つの花だけをみると、それほど目立ちませんが、開花と同時に出る若葉が、紅・褐・黄・緑と、木によって様々であり、葉の色と花の色との調和が美しく、最高の気品があります。



これに対し、主として中部以北に自生するオオヤマザクラ(別名・ベニヤマザクラ)は、花色がバラ色でヤマザクラより濃く、あでやかな美しさを持っています。葉や花などの各部分は、全体にヤマザクラより大柄でりん片の外側が著しく粘るのが特徴となっています。

オオシマザクラ

房総半島・伊豆半島の南部・伊豆七島など、本州の暖帯に自生する桜です。若葉は黄緑色で、ヤマザクラと同様に花より先に開きます。

花は白色で、黄緑の若葉とよく調和し優雅な美しさがあります。この品種は潮害・煤煙などに強く、都市およびその周辺で街路樹や公園樹として広く植栽されています。

葉は塩漬けにして、桜餅を包む皮として利用されています。



エドヒガン

本州・四国・九州と広く自生する桜で、別名“アズマヒガン”・“ウバヒガン”とも呼ばれています。花が早咲きである点が一般に歓迎され、古くから植えられてきました。花は一重と八重咲きのものがあり、花色は白色から淡紅色まで変化に富んでいます。

枝の垂下する「シダレザクラ」は、この種類の一型に属し、エドヒガン同様に花も色の白いものから淡紅色まであり、八重咲きの品種もあります。



長寿で老樹が多く、各地に巨木・名木が点在しています。

なお、彼岸桜・十月桜等は、エドヒガンに似ていますが、これらは別種です。

マメザクラ

マメザクラは、富士・伊豆・房総を中心とする地方に自生する種類で、別名、“フジザクラ”・“ハコネザクラ”とも呼ばれます。

名のように花は小さく、花色は白または淡紅色で品のある清楚な野生の美しさをもっています。低木状の木にいっぱい花を咲かせ、萌芽力も大変良いので、最近では盆栽あるいは庭木として広く培養されるようになりました。



カンヒザクラ

“ヒカンザクラ”とも呼ばれていますが、“ヒガンザクラ”（彼岸桜）と混同されやすいので、“カンヒザクラ”の名が一般に用いられています。カンヒザクラは中国南部・台湾に分布するが、古くから琉球列島や鹿児島県に入り、石垣島や久米島などに自生しています。

花は1～3月に葉に先だって開き（半開鐘状）、色は紅または濃紅で一見紅梅か緋桃のようで美しく、今日では沖縄から伊豆半島にかけて温暖な地方で庭木として広く植栽されています。



園芸品種のサクラ

染井吉野【そめいよしの】

園芸品種を代表する品種で、全国至るところに植えられています。花は淡紅色の一種で、新葉より先に密集して咲き、全枝が花に埋まるさまは、真に絢爛豪華です。繁殖が簡易で生長も早く、花つきも非常によいので急速に全国各地に普及しました。主に、公園・街路・学校・堤防などの公共施設に集団的に植えられています。

この品種は江戸時代末期、江戸染井村（現在の豊島区駒込）の植木屋が「吉野桜」と称し、売り出したのが始まりです。その後、桜の名所“吉野山のヤマザクラ”と区別するため、この名がつけられました。



普賢象【ふげんぞう】

室町時代から知られている、最も古い里桜の代表的な品種で“普賢堂”とも呼ばれています。名は、花の中心部にある二枚の緑色の葉（雌しべが葉化したもの）が外側に曲がり、普賢菩薩の乗っているゾウの鼻に似ていることからつけられました。花は大形の美しい八重咲き、色は淡紅で後に白ぼくなり、柄が長く花が垂れる上品な桜です。

樹勢は強健で大木（8～15m）になる為、公園樹や並木に適しています。



関山【かんざん】

普賢象と同じく、古くから知られた里桜の代表的な品種です。

花は大形の八重咲き、色は濃紅色であでやかな美しさです。

あでやかさが外国でも好まれ、アメリカ・イギリス・オーストラリアなど海外にも広く植えられています。樹勢は強健で成長も早く、大木(9～13m)となります。枝が上向するので中庭園にも向きますが、大庭園や公園などの植栽にも適しています。



一葉【いちよう】

花芯から一本の葉化した雌しべがあるので、“一葉”と名づけられました。花は八重咲き、色は淡紅色で満開になると白っぽくなり、花全体がややちぢれて見えます。花の大きさは普賢象などより少し小さく、柄の垂れる可憐な桜です。

樹勢は強く大木(8～12m)となるので、広い公園や並木に適します。東京付近に多く植えられ、とくに新宿御苑、多磨墓地等には老大木が多く有名です。



松月【しょうげつ】

里桜の代表的品種で、花つきが非常によく、大変優美な桜です。花は八重咲きで大きく、色は淡紅色(外弁は帯紅色、内弁は白色)で満開後は白っぽくなります。小高木(4～5m)で枝が横に広がり、樹形は傘型となります。

枝が横に張るので、大庭園・公園などに適しています。



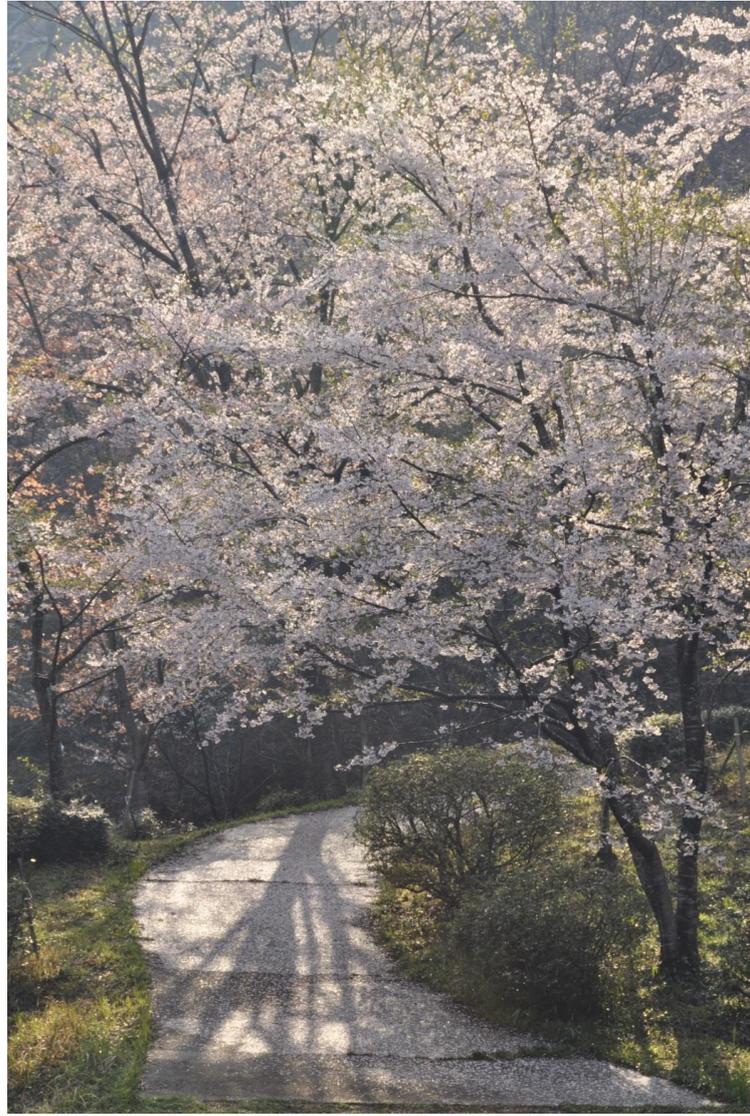
自衛隊演習場の「ソメイヨシノ」



今八幡宮の「シダレザクラ」



「ダンジョウ彈正イトザクラ」(周南市鹿野)



木戸山公園の「ヤマザクラ」



山口県農林総合センターの「ソメイヨシノ」



「長登のシダレザクラ」（美祢市美東町）



木梨堤の「ソメイヨシノ」

周防国三ノ宮 仁壁神社の「ヤエベニシダレ」



編集・発行

平成27年（2015年） 3月

みやの地域づくり協議会 生活・環境部会

〒753-0011

山口県山口市宮野下 3054 番地

（宮野地域交流センター内）

みやの地域づくり協議会 生活・環境部会

TEL 083-928-0250

FAX 083-928-0302

E-mail : miyanoti@c-able.ne.jp